

論文 Article

# 東広島市における市民の景観意識と景観づくりへの課題 — アンケート調査にもとづく一考察 —

岡橋秀典<sup>1</sup>

## Resident's Consciousness to the Local Landscape and its Conservation and Design Issues in Higashi-Hiroshima City: Based on a Questionnaire Survey

Hidenori OKAHASHI<sup>1</sup>

**要旨：**2004年の景観法の制定により、近年、景観政策への関心が高まっている。本稿では、アンケート調査を用いて、東広島市を対象に市民へのアンケート調査を行い、地域の景観に関する意識や景観保全への意向を明らかにしようとした。さらにその結果をふまえ、今後の景観保全や景観づくりのための課題も検討した。今後東広島市の景観政策を推進するには、景観問題について学び、議論する機会が東広島市によって提供されるべきであろう。

**キーワード：**景観政策、景観法、景観意識、景観保全、景観づくり

**Abstract:** In recent times, landscape policy comes under the spotlight, because the landscape law was newly enacted by the Central Government in 2004. This paper intends to clarify the local residents' consciousness to the surrounding landscapes and their opinion to the landscape conservation in Higashi-Hiroshima City by employing a questionnaire survey method. Based on the results, we examined the landscape conservation and design issues. For promoting the landscape policy, the opportunity for learning and discussing on the landscape issues should be provided by the local authority (Higashi-Hiroshima)

**Keywords:** Landscape policy, Landscape law, Landscape consciousness, Landscape conservation, Landscape design

### I. はじめに

近年、景観を保全・整備して良好な生活空間を形成しようとする動きが全国的にみられる。これは、2004年の国の景観法制定により、景観保全に関する法的規制力が強化され、また景観施策がより体系的になったことが大きい。この法律は、都市、農山漁村等における良好な景観の形成を図るため、景観計画を策定し、また景観計画区域、景観地区等において良好な景観を形成するために規制を実施し、景観整備機構による支援等を行うという広範なものである。さらに、自治体が制定した景観条例の基本理念や規制などに法的根拠を与える基本法という性格も有している。このように

わが国の景観政策をめぐる法的状況は、従前の地方自治法にもとづく景観条例に委ねられていた状況から大きく前進し、その結果、景観法にもとづく景観行政団体になっている自治体が309(2008年8月1日現在)、さらに景観計画を策定した自治体は241団体(2010年8月1日現在)を数えるに至っている。このような行政、住民、事業者などが協働して良好な景観を形成しようとする一連の動きは「景観づくり」と称されることが多い<sup>1)</sup>。本稿もこれに従うが、そこには良好な景観を保全するだけでなく、創出することも含んでいることに留意したい。

このように景観政策について関心が高まっている

<sup>1</sup> 広島大学大学院文学研究科：Graduate School of Letters, Hiroshima University

が、景観法にもとづく取り組みのない自治体が全国には数多くある。国土交通省が実施した第6回景観法活用意向調査（2009年実施）によると、景観行政団体になる意向のない自治体が全地方自治体（都道府県を含む）の63%を占め、その理由として「景観行政上の特段の課題がないため」（全体の59%）を最も多くあげている。また景観保全の核となる「景観地区」の活用を自治体が考えない理由で最も多いのは、「景観地区を定めるまで住民の意識が醸成されていない」（全体の49%）である。行政が景観に関する課題があると認識するにおいても、また特定の地区を対象に景観整備を進める際にも、住民の景観に関する意識や合意形成が重要な要素となる。それゆえ、景観に関する住民意識を十分に把握することが重要となる。

特に都市化や開発が進む地域では、景観保全への合意の難しさが景観政策の進捗を阻んでいる面があるため、この点の克服が大きな課題となろう。本研究が対象とする東広島市もこのような自治体の一つである。東広島市については、西条町を対象として岡橋（2005）が実証的検討を行い、住民の評価が多様であり、規制論だけでは景観の保全は不可能であることを既に指摘している。本研究は、この成果に立ちながら、対象を現在の東広島市全体に広げ、アンケート調査にもとづいて、市民の景観に関する意識と意向の分析を行い、景観づくりに関する課題を検討することを目的とする<sup>2)</sup>。

## II. 対象地域の概観と調査の方法

### 1. 地域の概観と景観の特徴

東広島市は、1974年（昭和49年）年に、賀茂郡の西条町、八本松町、志和町、高屋町の計4町が合併して誕生した。市が生まれた背景には、当時、この地域で進みつつあった賀茂学園都市建設という大規模開発プロジェクトがあったと考えられる。西条町は古くからこの賀茂地方の中心地であり、酒造業で栄えてきたが、その市街地以外の東広島市域は一般的に農村的色彩の強い地域であった。東広島市の発足後は、広島大学の移転が進み、また広島中央テクノポリスの指定も受けたことにより、道路をはじめとした社会資本や工業団地などの産業基盤の整備が進んだ。また、広島市まで、市内のJRの最寄り駅から30分程度で到達するため、広島市の郊外住宅地域としても発展してきた。それゆえ、旧市4町の人口は合併直後の1975年には約6万6千人であったが、その後増え続け、30年後の2005年には約2倍の約13万4千人に達した。さらに、2005年の2月には、黒瀬町、福富町、豊栄町、

河内町及び安芸津町の5町と合併し、広島県中央部に位置する人口18万人強に及ぶ都市となった。以上のように、東広島市が誕生してからの約30年間、東広島市は開発の波にさらされ、人口の流入も進み、急速に都市化が進んできた。それだけに、都市化が景観に与えた影響も大きかったはずである。

現在の市域は、南部の瀬戸内海沿岸から北部の中山間地域までの広い範囲を含み、地形が異なるだけでなく海岸部の0m地帯から1,000mを超える山地まで標高差も大きい。西条盆地を中心に小盆地が点在しているところに特徴があり、それらを取り囲むように1,000m未満の山地が広がる。東広島市は、このように盆地が多いことから景観上もその影響を受け、適度な大きさのスケールでまとまりのある景観を呈している。もっともよくみられるのは、盆地の周囲を囲む山々や里山のアカマツ林を背景に、赤瓦と白壁の農家が点在し、その手前に水田が広がる、という景観であり、都市環境研究所（1980）ではそれを東広島市の「典型景観」としている。その具体的な景観構成の詳細については、岡橋（2005）で述べているので、ここでは省略する。

### 2. アンケート調査の目的と方法

東広島市の景観及び景観政策に関して市民を対象に住民意識のアンケート調査「東広島市の景観まちづくりに関するアンケート」を実施した。調査方法は東広島市全域について、迅速かつ効率的に回答を得るために、インターネットによる調査を行った<sup>3)</sup>。こちらで用意したアンケート用紙をウェブサイト用に加工したうえで調査を実施した。このタイプの調査は、郵送調査に比べ、若い年齢層から多くの回答が得られる利点がある。その一方で、パソコンの利用が必要なため、高齢者をはじめ、若年～中年層でもITリテラシーが低い人からの回答は少なく、分析の際には注意が必要である。実施期間は2009年8月20日～8月24日で、東広島市内のモニター登録者約1,400名に対し回答を依頼し、600名を超えた時点で調査を終了することを条件とした。その結果649人から有効回答を得た。本稿で分析対象とするのは、この有効回答である。

### 3. 回答者の属性

年齢階層別では、表1のように、20歳代、30歳代、40歳代がそれぞれ30%前後を占め、これらの年齢層だけで全回答者の87%を占めている。他方、50歳以上は、50歳代が9.9%、60歳以上が3.1%とかなり少ない。この年齢分布を、実際の20歳以上の東広島市人口の年齢構成と比べてみると、20歳代から40歳代は10%以上上回っているのに対し、50歳以上は少な

表1 回答者の年齢構成と東広島市民（20歳以上）の年齢構成（東広島市の人口は2009年8月末）

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
回答者 (%)	28.4	32.8	25.9	9.9	3.1
20歳以上の東広島市人口 (%)	16.2	18.7	16.0	15.9	33.2

資料：2009年8月実施のアンケート調査および東広島市住民基本台帳による。

く、特に60歳以上は極端に少ない。インターネットを用いた調査の特徴が明瞭に出ているといえよう。すなわち、郵送調査で回収率の悪い若年層のデータを多く取得できている一方、このような情報システムになじみのない高齢層はかなり少なくなってしまう。特に女性では男性以上に高齢者の割合が少ない(図1)。

性別では、男性が53%でやや比率が高いものの、市民の性別分布と大きな差はない(表2)。

居住地別でも、ほぼ市人口の地域別割合にそった回答が得られている(表3)。西条が最も多く、高屋、八本松、黒瀬の4旧町の回答数が特に多い。ただ、旧町村名を尋ねる形をとったため、「わからない」とす

る回答が少なからずあること、志和、福富、豊栄、河内、安芸津は回答の絶対数が少ないこと、この2点から旧町村間の厳密な比較は難しい。

居住地のタイプ別では、新しい住宅地が41%を占め最も多く、市街地が22.5%、農村集落が20%であり、これら三つで80%を超える(図2)。内訳では、新興の住宅地の比率がやや高いところに特徴がある。

東広島市での居住歴については、分布がかなりばらばらっている(図3)。20年以上という居住歴の長い層が30%近くある一方、5年未満という短い層も30%を占める。短い層がやや多いのは、大学生の居住が多く、人口の流入が多いこの地域の特徴を反映しているといえよう。

表2 回答者の性別と東広島市民の男女比（東広島市の人口は2009年8月末）

	男性	女性	計
回答者数(人)	344	305	649
回答者の性別 (%)	53.0	47.0	100.0
市民の性別 (%)	50.1	49.9	100.0

資料：2009年8月実施のアンケート調査および東広島市住民基本台帳による。

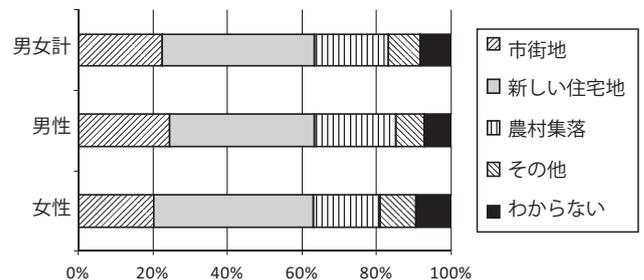


図2 居住地のタイプ別にみた回答者の構成  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

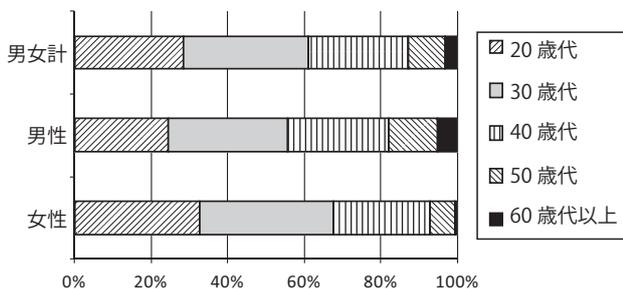


図1 回答者の年齢構成  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

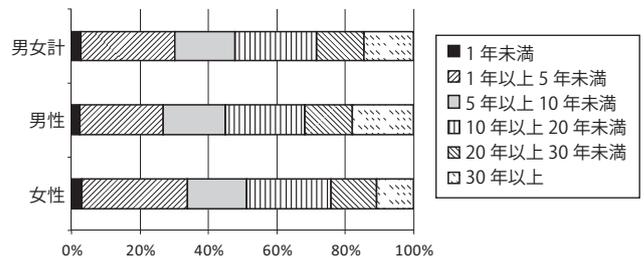


図3 回答者の東広島市での居住年数  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

表3 回答者の旧町村別居住地と東広島市民の地域別人口（東広島市の人口は2009年8月末）

	西条	八本松	志和	高屋	黒瀬	福富	豊栄	河内	安芸津	わからない
回答者数(人)	249	89	13	96	73	1	9	16	13	90
回答者の地域別割合 (%)	38.4	13.7	2.0	14.8	11.2	0.2	1.4	2.5	2.0	13.9
市人口の地域別割合 (%)	36.2	15.2	4.2	17.1	13.4	1.6	2.3	3.7	6.4	

資料：2009年8月実施のアンケート調査および東広島市住民基本台帳による。

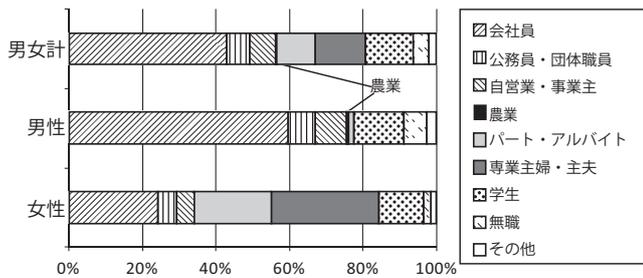


図4 回答者の職業  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

回答者の職業は、会社員が40%を超えて最も多く、他は分散している(図4)。男女別では、男性で最も多いのが会社員で60%を占めるのに対し、女性では専業主婦が最も多いものの、多様な職種に分散している。農業従事者が、男性、女性を問わずわずか2名しかないのは少なすぎる。男性の場合の会社員の多さとともに、本調査方法の特性によりややバイアスがかかっているかもしれない。なお、学生が14%近くを

占めるのは、学園都市である本市の特徴といえよう。

### Ⅲ. 東広島市民の景観に関する意識—景観への関心と選好

#### 1. 景観への関心

東広島市民の身の回りの景観への関心は、総じて高い(表4)。「とても関心がある」が25.7%、「やや関心がある」が55.3%で、両者を合わせると80%を超える。中でも、強い関心を示す者が4分の1あることは、景観への関心の高さを示している。「どちらともいえない」がわずかに10%強であるのも、明かな意志表明を行いやすい事項であることを示唆している。

性別で見ると、男性で強い関心をもつ層がやや多いが、男女間に特に大きな差異があるとはいえない。年齢階層別では、「とても関心がある」層の割合が、男性の50歳代で34%、同60歳代で72%、女性50歳代で40%と、全体の26%と比べて大きいのが注目される。

表4 性別年齢階層別に見た景観への関心

性別	年齢階層	とても関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない	総計
男性	20歳代	20 23.8	51 60.7	8 9.5	2 2.4	3 3.6	84 100.0
	30歳代	29 27.1	53 49.5	15 14.0	10 9.3		107 100.0
	40歳代	19 20.9	53 58.2	12 13.2	6 6.6	1 1.1	91 100.0
	50歳代	15 34.1	21 47.7	5 11.4	3 6.8		44 100.0
	60歳以上	13 72.2	4 22.2	1 5.6			18 100.0
	小計	96 27.9	182 52.9	41 11.9	21 6.1	4 1.2	344 100.0
女性	20歳代	25 25.0	57 57.0	10 10.0	7 7.0	1 1.0	100 100.0
	30歳代	23 21.7	59 55.7	16 15.1	8 7.5		106 100.0
	40歳代	15 19.5	48 62.3	11 14.3	3 3.9		77 100.0
	50歳代	8 40.0	11 55.0	1 5.0			20 100.0
	60歳以上		2 100.0				2 100.0
	小計	71 23.3	177 58.0	38 12.5	18 5.9	1 0.3	305 100.0
総計	167 25.7	359 55.3	79 12.2	39 6.0	5 0.8	649 100.0	

注：上段が実数，下段が%，設問「あなたは身の回りの景観について、関心がありますか。」への回答  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

上述のように身の回りの景観への関心は総じて高いものの、東広島市の景観を特に魅力的と考えない人が多数存在する。東広島市の景観の魅力度についての質問では(表5)、「とても魅力的である」は4.3%に留まっていたきわめて少なく、「まあ魅力的である」が42.8%を占める。その一方で、「あまり魅力的でない」が21%もある。さらに、明快な回答に窮した結果としての「どちらともいえない」が30%にも達している。このように、東広島市の景観については住民の間でかなり意見が分かれているといえよう。どのような場合に景観が魅力的と判断されるのかは難しいところだが、少なくとも著名な景観が存在する場合は、住民もまた魅力的と考える割合が高まるであろう。東広島市の場合は、そのような引き上げ効果のある景観が少ないことがこのような結果をもたらしている面がある。もちろん、外から注目されないからと言って景観が魅力的でないというわけではない。

性別にみると、「とても魅力的である」と「まあ魅

力的である」を足した割合が男性の43%に対し、女性が52%であり、女性の方が魅力的とする割合がやや高い。また、年齢階層別では、「とても魅力的である」と「まあ魅力的である」を足した割合が、女性の50歳代で65%に達し特に高いのが注目される。また、「まったく魅力的でない」と「あまり魅力的でない」を足した否定的見解の割合に注目すると、男性の30歳代(35.5%)、同20歳代(28.6%)が特に高い値を示しており、男性の若年層で評価がやや低いことがわかる。これに対し、女性の場合は、若年層の場合でも特に他と異なる傾向はみられない。

## 2. 東広島市民の景観選好

東広島市の景観は住民によってどのように評価されているのかを、景観選好という形で調べてみた。すなわち、日頃目にしていると思われる主な景観を文章で提示し、それらから「好きな景観」と「大切にしたい後世に残したい景観」を上位三つまで答えてもらう形をとった。19項目をリストアップし、それ以外にもあ

表5 性別年齢階層別に見た景観の魅力度

		とても魅力的 である	やや魅力的 である	どちらとも いえない	あまり魅力的 でない	まったく魅力的 でない	総 計
男 性	20 歳代	4 4.8	34 40.5	22 26.2	23 27.4	1 1.2	84 100.0
	30 歳代	2 1.9	41 38.3	26 24.3	32 29.9	6 5.6	107 100.0
	40 歳代	5 5.5	34 37.4	33 36.3	17 18.7	2 2.2	91 100.0
	50 歳代	1 2.3	18 40.9	19 43.2	6 13.6		44 100.0
	60 歳以上		9 50.0	6 33.3	3 16.7		18 100.0
	小 計	12 3.5	136 39.5	106 30.8	81 23.5	9 2.6	344 100.0
女 性	20 歳代	4 4.0	48 48.0	30 30.0	18 18.0		100 100.0
	30 歳代	2 1.9	50 47.2	36 34.0	17 16.0	1 0.9	106 100.0
	40 歳代	7 9.1	32 41.6	19 24.7	18 23.4	1 1.3	77 100.0
	50 歳代	2 10.0	11 55.0	3 15.0	3 15.0	1 5.0	20 100.0
	60 歳以上	1 50.0	1 50.0				2 100.0
	小 計	16 5.2	142 46.6	88 28.9	56 18.4	3 1.0	305 100.0
総 計	28 4.3	278 42.8	194 29.9	137 21.1	12 1.8	649 100.0	

注：上段が実数，下段が%，設問「あなたは、東広島市全体の景観を、魅力的だと感じますか。」

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

れば具体的に記述できるようにした。なお景観の選定に当たっては、岡橋（2005）の東広島市西条町3地区で行ったアンケートの15項目に追加する形をとった。なお、参考のために各景観を表す写真を本稿末尾に付した。

アンケート調査の結果を選好の多いものから順に並べたものが図5である。「好きな景観」として多くの支持を集めるのは、「酒蔵のある旧山陽道沿いの景色」が1位で55%であり、半数を超える。支持率を男女別にみると、男性では50%であるのに対し、女性は61%と明らかに高く、また年齢階層別では、年齢が上がるにつれ、支持率も上がる傾向がみられる。

第2位に来るのは「遠くに見える山並みの風景」で39%を占め、さらに「島が点在する瀬戸内海の風景」(30%)、「西条駅付近から広島大学へ伸びる街路樹のあるブルーパールの景色」(25%)、「一面に広がる水田の風景」(22%)、「赤瓦屋根の農村風景」(21%)までが20%を超え、一定の支持を集めている。それ以降の景観では支持率が一気に10%低下し、これらとの間に明瞭な差がみられる。

以上みた上位を占める景観は、盆地の周囲を囲む山々や里山のアカマツ林を背景に、赤瓦と白壁の建物が点在し、その手前には水田が広がっているという、東広島市でよくみられる典型景観をベースに、酒蔵通りの歴史的景観やブルーパールの近代的景観といったスポット的なものがプラスされる形で形成されているといえよう。さらに、海から山までをカバーする東広島市域の特性を反映して、瀬戸内海の風景も追加され

る形となっている。このような結果は、西条盆地で行った岡橋（2005）の結果に概ね類似している。こうした中で意外なのは、「山間部の棚田の風景」、「黒瀬川などの河川沿いの風景」、「赤松などからなる里山の風景」、「点在するため池の風景」といった、この地域にとって身近な自然である里山、河川、ため池などの景観への支持が総じて低いことである。

「好きな景観」としては、予めリストアップした19項目以外の景観も多数あげられている。ここでは具体的な地域景観だけにしぼり、かつ5名以上が言及したものをあげておくと、安芸津の海と山の景観、鏡山公園、三ツ城古墳が該当するが、中でも鏡山公園への支持が大きい。

「大切にしたい後世に残したい景観」という点からも景観の選好尋ねてみた（図6）。ここであげられた景観は、当然ながら保全を求める側面がより強くなるだろう。第1位に来るのは、「好きな景観」の場合と同様、「酒蔵のある旧山陽道沿いの景色」であり、しかも64%と前問以上に大きな支持を集めている。第2位には「遠くに見える山並みの風景」が30%で位置するが、第1位に比べると支持が半減している。第3位「島が点在する瀬戸内海の風景」、第4位「赤瓦屋根の農村風景」、第5位「一面に広がる水田の風景」と続くが、いずれも20%代の支持を集める。この第2位から5位はいずれも地域の景観の大枠を形作るものであり、それゆえ、後世に残そうとすればスポット的な対応ではなく広域的な保全の取り組みが必要となる。ブルーパールは、「好きな景観」では一定の支持

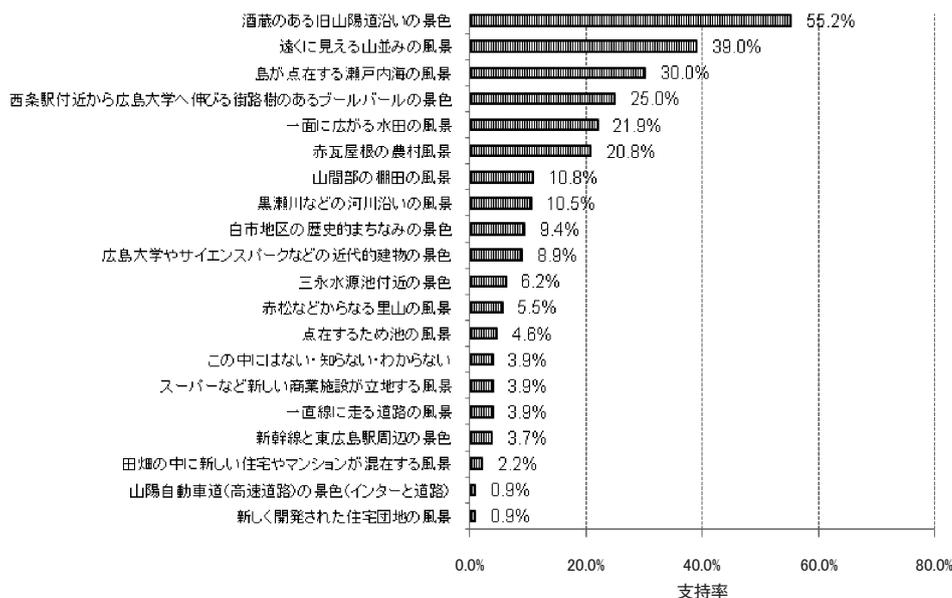


図5 「好きな景観」

注：設問「東広島市には、次のようなさまざまな景観がみられます。あなたが「好きな景観」「大切にしたい後世に残したい景観」はどれですか。それぞれについて上位3つまでお選びください。」

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

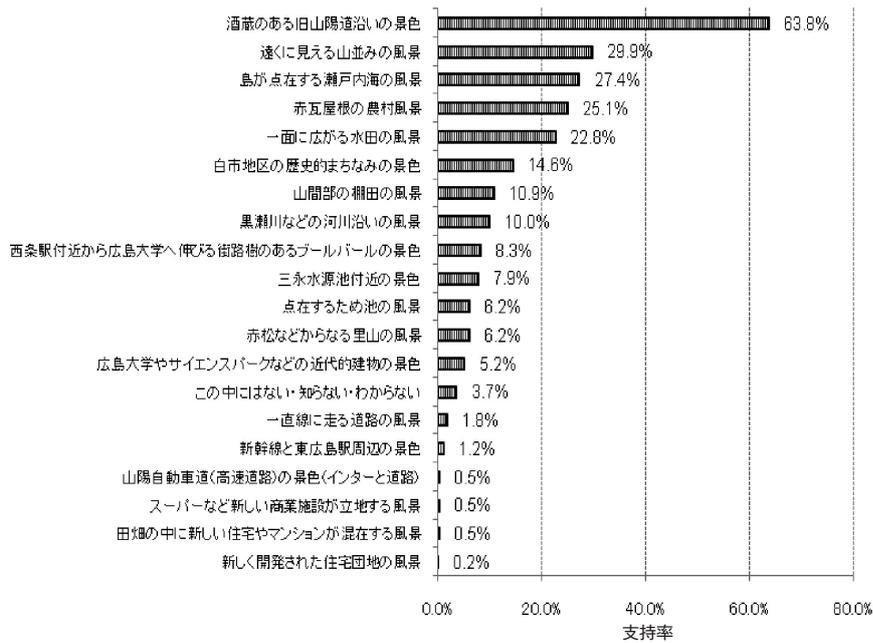


図6 「大切に後世に残したい景観」

注：設問「東広島市には、次のようなさまざまな景観がみられます。あなたが「好きな景観」「大切に後世に残したい景観」はどれですか。それぞれについて上位3つまでお選びください。」  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

を集めていたが、近年創られたものだけに、この設問では目立った支持がなく大きく後退している。これに対し、「白市地区の歴史的まちなみの景色」は前問の9.4%から14.6%へと支持率を上昇させ、前より上位に来ている。特定地区の歴史景観として、酒蔵通りほどの認知は高くないが、市民から注目される存在といえよう。

#### IV. 東広島市民の景観への評価・意向と景観づくりへの課題

##### 1. 景観の現状に関する評価

東広島市の景観の現状については、「とても良好」とする回答はわずか2.5%ときわめて少ないが、「まあ良好」が52%と過半数を占めている(図7)。このことから景観の現状については大半の市民は肯定的に捉えているといえよう。しかし、「あまり良好でない」とする回答も16.5%あり、「まったく良好でない」の2.9%を足すと、「良好でない」という評価が20%弱になる。大勢を占める肯定的な景観評価の一方で、このような否定的な評価が一定数存在することに留意する必要がある。

性別にみると、上述の「良好でない」とする回答の比率が男性は22%であるのに対し女性は16%であり、男性の方がやや厳しい評価に傾いている。また、年齢階層別では、同じく「良好でない」とする割合が、男性の60歳代(33.4%)と30歳代(29.9%)で特に

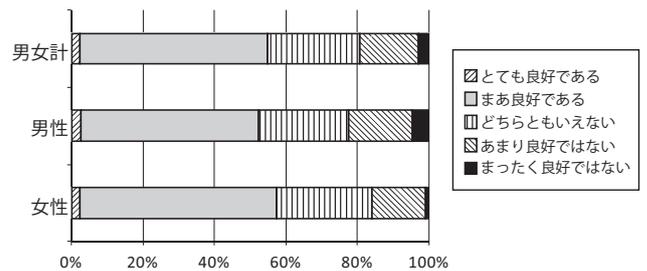


図7 景観の現状についての評価

注：設問「あなたは、東広島市の景観の現状を、良好だと感じますか。」  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

高いのが注目される。

次に東広島市の景観の現状のどこが問題なのかをさぐってみた(図8)。一般的にどの地域でも損なわれる可能性のあるものを一覧としてあげ、個々についてどの程度気になるかを尋ねた。「とても気になる」という回答に注目すると、「ポイ捨てや不法投棄などによるごみの散乱」が45.5%、「汚れて荒廃した川や池」が39.3%もあり、この2つの状況が問題として特に強く意識されていることがわかる。東広島市はため池が多い地域であり、後者はその問題状況を指摘しているともいえる。

さらに、「とても気になる」に「やや気になる」も合わせて「気になる」程度について検討してみた。当然ながら、上で指摘した項目は80%弱の支持という高率に達するが、それら以外にも60%を超える回答者が景観上問題があると意識しているものとして、「違

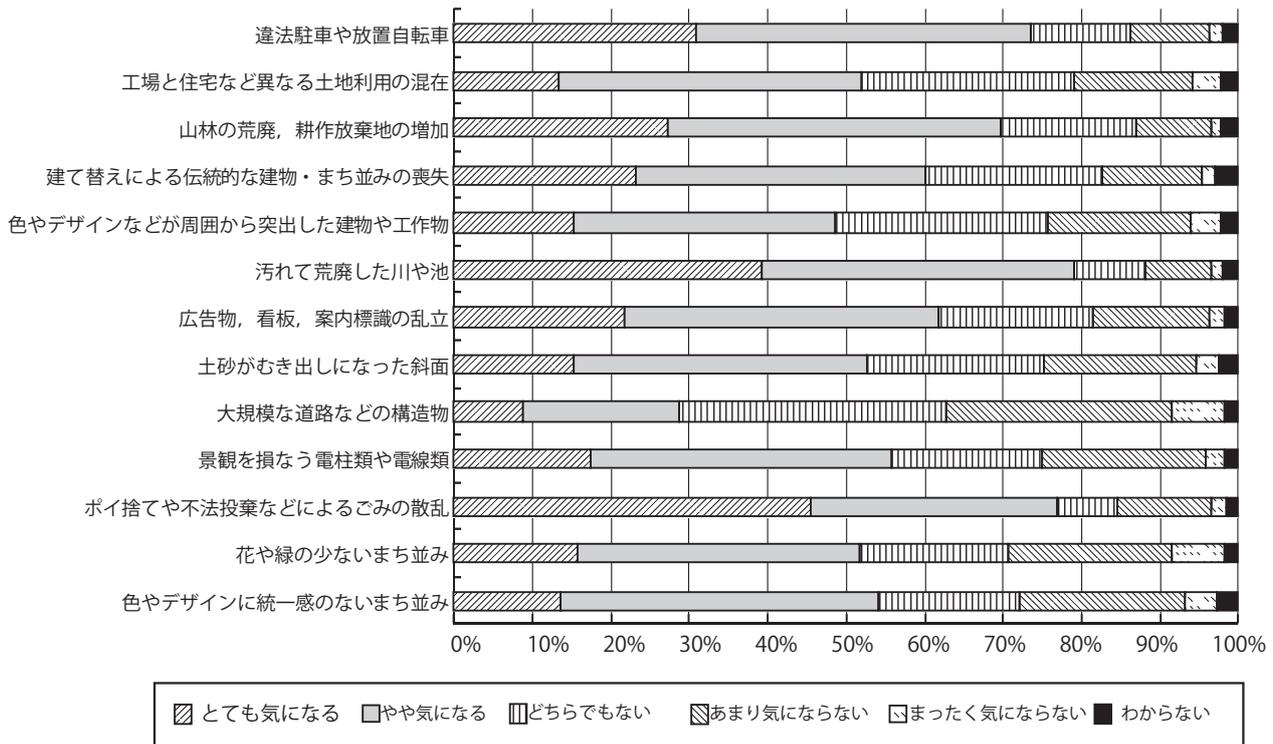


図8 損なわれやすい景観についての意識

注：設問「景観が損なわれやすい例を13あげています。それぞれの事例は、東広島市の景観の中でどの程度気になりますか。あなたのお考えにあてはまるものをお選びください。」  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

法駐車や放置自転車」, 「山林の荒廃, 耕作放棄地の増加」, 「広告物, 看板, 案内標識の乱立」, 「建て替えによる伝統的な建物・まち並みの喪失」があがってくる。その他の項目も, 「大規模な道路などの構造物」が30%弱と極端に低い以外は, 概ね半数が気になると回答している。

性別にみると, 「違法駐車や放置自転車」, 「山林の荒廃, 耕作放棄地の増加」, 「建て替えによる伝統的な建物・まち並みの喪失」については, 男性より女性の方が問題と考える比率がやや高くなっている。年齢別では, 年齢が上がるにつれて, 「気になる」とする割合が上昇する傾向がみられる。「山林の荒廃, 耕作放棄地の増加」ではそれが特に明瞭で, 「とても気になる」の割合が, 20歳代から30歳代では20%強に留まるが, 40歳代から50歳代では40%前後となり, 男性60歳代では50%に達する。このような年齢層による評価の違いは, 山林や耕地の項目に顕著であることを考えると, 各世代が関わってきた環境の特性に起因するのかもしれない。

## 2. 景観づくりへの市民の意向

以上のように, 景観の現状に関しては多くの面で懸念が表明されているが, このような問題状況に対処すべく景観の保全・整備などを行う景観づくりへの市民

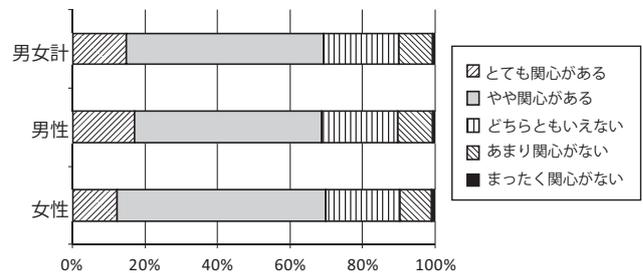


図9 景観づくりへの関心

注：設問「あなたは, 東広島市の景観を守り育て, より良くすることに関心がありますか。」  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

の意向はどうか。

まず, 景観づくりについて関心をもつ人の割合はかなり高い(図9)。「とても関心がある」が14.8%を占め, 「やや関心がある」は54.4%にも達する。両者を合わせると, 約70%の高率となる。これに対し, 明確に関心がないと表明するのは, わずか10%に過ぎない。性別では, 男性で「とても関心がある」という積極層の割合がやや高く, 20%近くに達する。年齢階層別では, 「とても関心がある」が男性の60歳代以上で61.1%, 女性の50歳代で30%を占め, これらのグループでは積極層の割合が特に高いことも注目される。

表6 身の回りの景観への関心と景観づくりへの関心

身の回りの景観への関心	景観づくりへの関心					総 計
	とても関心がある	やや関心がある	どちらともいえない	あまり関心がない	まったく関心がない	
とても関心がある	72 43.11	84 50.30	8 4.79	2 1.20	1 0.60	167 100.00
やや関心がある	23 6.4	241 67.1	75 20.9	20 5.6		359 100.0
どちらともいえない		20 25.3	43 54.4	16 20.3		79 100.0
あまり関心がない	1 2.6	8 20.5	8 20.5	21 53.8	1 2.6	39 100.0
まったく関心がない			1 20.0	1 20.0	3 60.0	5 100.0
総 計	96 14.8	353 54.4	135 20.8	60 9.2	5 0.8	649 100.0

注：上段が実数，下段が%

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

このような景観づくりへの関心は、身の回りの景観への関心とどのような関係があるのだろうか。二つの質問をクロスしたのが、表6である。身の回りの景観について関心が高いほど、景観づくりへの関心も高いことが読み取れる。身の回りの景観について「とても関心がある」層では、景観づくりに「とても関心がある」が40%を超え、「やや関心がある」の50%を合わせると90%以上が関心を有する。「やや関心がある」層では、「とても関心がある」はわずか6%であるが、「やや関心がある」のは67%に達する。これに対して、「あまり関心がない」層では、景観づくりに何らかに関心があるのはわずか23%で、54%ははっきり「あまり関心がない」としている。

それでは、景観づくりは市民にどのように捉えられているのだろうか。上述のように景観づくりへの関心は総じて高いが、具体的な取り組み方についてはかなり意見が分かれる(図10)。最も多いのは、「規制やルールを厳しくしない範囲で、市民への意識の啓発などの取り組みを進める」であり、60%弱を占める。これに続くのが、「市の条例や住民による協定などを設け、規制やルールを厳しくする」で35%である。「今のままでよく、新たな取り組みは必要としない」は10%にも満たないので、前2者の、いわゆる啓発派と規制派の大きく二つに分かれるといえよう。男女別にみると、規制派が男性で36.6%あるのに対し女性では33.2%と男性の方がわずかに多いが、年齢別では顕著な差異は認められない。景観づくりへの関心の程度との関係では(表7)、景観づくりへの関心が高い層でも低い層でも常に啓発派の方の割合が高いが、景観づくりへの関心が高くなるほど規制派の比率が高まる傾

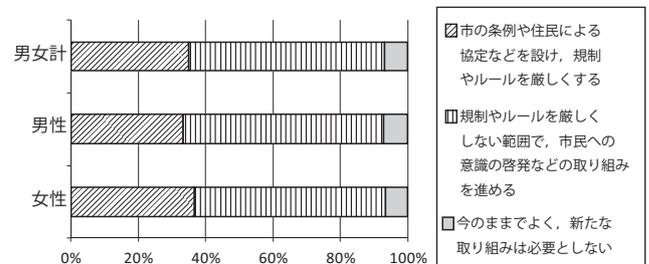


図10 景観づくりへの取り組みのあり方

注：設問「あなたは東広島市の景観を良くしていくために、どのような取り組みが必要だと思いますか。最もお気持ちに近いものをお選びください。」

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

向がある。「とても関心がある」層では規制派が44%を占め、啓発派と拮抗するのに対し、「あまり関心がない」層では、規制派が22%に留まる。このような傾向は景観づくりへの参加意向との関係でもみられる。つまり迂遠なようだが、景観づくりへの関心を高めていくことが、条例や協定による規制にもとづく本格的な景観づくりにも有効に作用すると考えられる。

景観づくりにおいて行政の役割が重要であることは言うまでもない。市民は、行政が景観づくりにおいて果たすべき役割をどのように考えているのだろうか。アンケートであらかじめ掲げた6つの施策については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせると、いずれの施策も65%以上の支持があり、概ね重要と考えられている(図11)。各施策が互いにトレードオフの関係にないだけに、当然の結果といえよう。ただ、「とても重要である」という強い支持に注目すると、「景観に配慮した公共工事を行う」、「景観づくりの目標や基本方針を示す」が40%前後、「モデルとなる景観づくりを市が実践する」が30%の回

表7 身の回りの景観への関心と景観づくり活動への参加の意向

身の回りの景観への関心	活動への参加の意向					総計
	大いに参加したい	少し参加したい	どちらともいえない	あまり参加したくない	まったく参加したくない	
とても関心がある	35 21.0	83 49.7	40 24.0	3 1.8	6 3.6	167 100.0
やや関心がある	12 3.3	157 43.7	160 44.6	26 7.2	4 1.1	359 100.0
どちらともいえない	0 0.0	12 15.2	48 60.8	17 21.5	2 2.5	79 100.0
あまり関心がない	2 5.1	2 5.1	14 35.9	16 41.0	5 12.8	39 100.0
まったく関心がない				1 20.0	4 80.0	5 100.0
総計	49 7.6	254 39.1	262 40.4	63 9.7	21 3.2	649 100.0

注：上段が実数，下段が％  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

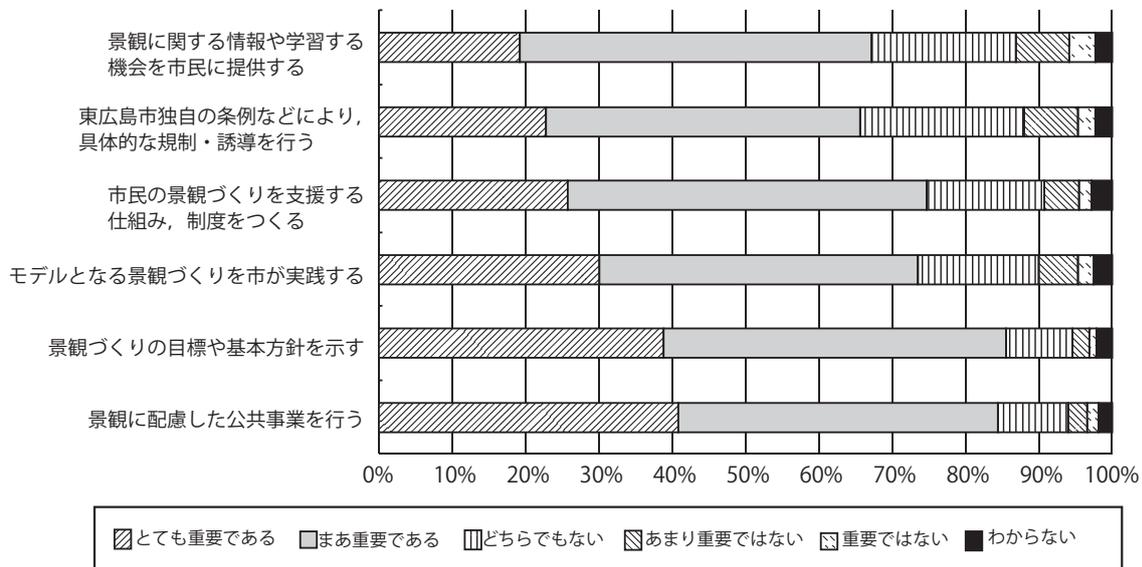


図11 景観づくりにおける行政の役割

注：設問「東広島市の景観をより良くしていく上で、行政が果たすべき役割について、それぞれどの程度重要だと思いますか。」  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

答を得ており、特に重視されている。性別にみると、「景観づくりの目標や基本方針を示す」、「東広島市独自の条例などにより、具体的な規制・誘導を行う」、「市民の景観づくりを支援する仕組み、制度をつくる」、「モデルとなる景観づくりを市が実践する」で、男性が女性より「とても重要である」とする割合がやや高く、行政の役割を重視する傾向がみられた。年齢別には、全体としての明確な傾向はないが、景観づくりの目標や基本方針を示すことについては、年齢が上がるほど支持が高くなる傾向がみられた。

景観づくりには市民の取り組みも重要である。景観に関わって市民が取り組むべきことについては、比較

的身近な範囲で行えることをあげている者が多いのが特徴である(図12)。最も回答が多い「地域の公園や道路の美化・清掃活動に参加する」は60%以上の支持を得ている。このような取り組みはすでに多くの町内会等で行われている事柄であろう。また、「廃車や廃屋など景観を阻害するモノの管理を適切にする」や「庭の花や緑を増やすなど、自宅のまわりの美化につとめる」は、個人がふだんから心がければ自宅で行えることである。これらに対し、団体や市による組織を核とした景観づくりの活動への参加となると、支持率がやや下がる。しかし、これらでも30%前後の支持があることはむしろ評価すべきなのかもしれない。意

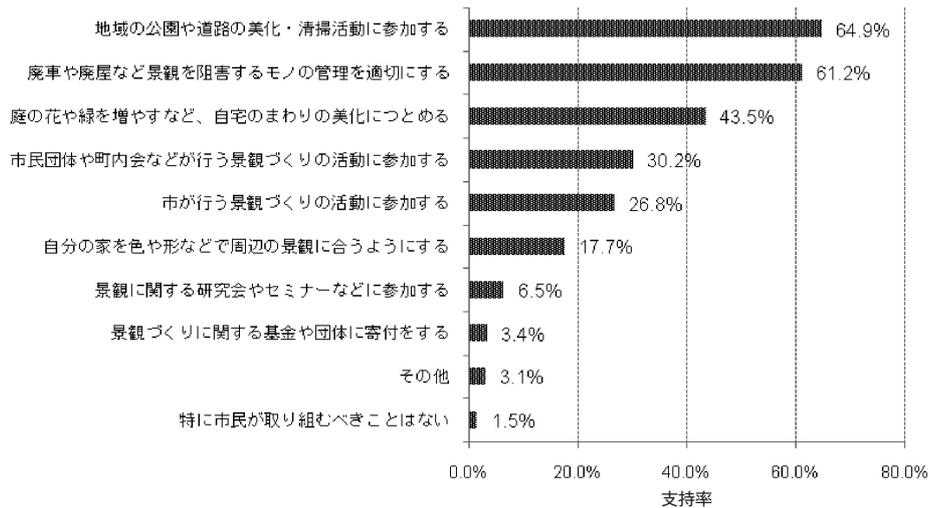


図 12 景観づくりのために市民が取り組むべきこと

注：設問「東広島市の景観をより良くしていく上で、市民が取り組んでいくべきことは何だと思いませんか。」

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

外なのは、「自分の家を色や形などで周辺の景観に合うようにする」が18%程度と低いことである。この点は景観の公共性への意識の高いヨーロッパと比べて、大きな違いといえよう。

### 3. 景観づくりのための課題

最後に、景観づくりを東広島市で進める際の課題となる事項をまとめておきたい。

今日の景観づくりにおいて、景観法が重要な役割を果たすことは言うまでもない。東広島市においても本格的に景観づくりを実施するとなれば景観法に則った施策が課題となろう。しかしながら、景観法についての市民の認識はあまり高くない（図13）。「大体的内容を知っている」はわずか2.2%に留まり、「聞いたことはあるが、具体的なことは知らない」でも33%あるに過ぎない。「まったく知らない」が60%を超えるという状況では、まだまだ景観法についての市民への情報提供が不十分といえよう。景観法は、特別にすぐれた景観を有する地域のみを対象としたものではなく、どの地域でも適用可能であり、また有効であることを、地域住民にまず認識してもらうことが重要である。

それでは、景観づくり活動に参加の意向を有する市民はどの程度存在するのだろうか。この点は、今後の活動展開の可能性を考える上で重要である。東広島市における景観づくり活動へ参加する意志の有無を尋ねてみると（図14）、「大いに参加したい」という強い意向を示すのは、わずかに7.6%である。ただし、その実数は49名であり、決して過小に評価すべきではない。「少し参加したい」となると40%近くに達するので、関心ある層はかなりの広がりをもっている可能

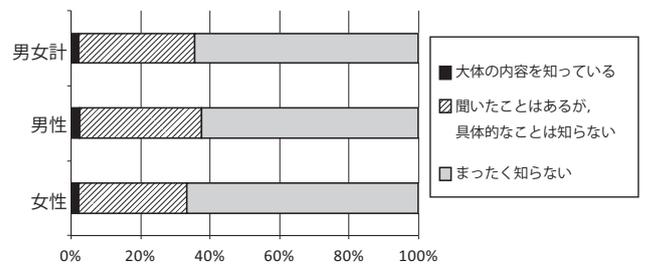


図 13 景観法の認知度

注：設問「平成16年に「景観法」が制定されました。あなたは、この法律をご存じでしたか。」

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

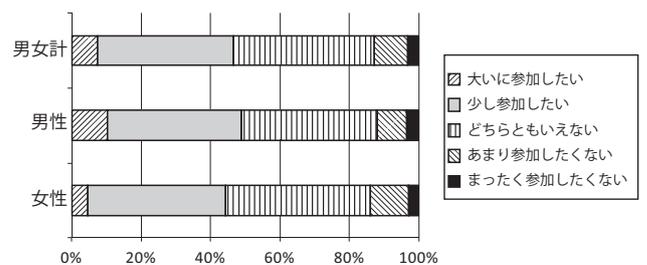


図 14 景観づくり活動への参加の意向

注：設問「あなたは今後、東広島市における景観づくりの活動に参加してみたいと思いますか。」

資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

性がある。また、表8で、景観づくりへの関心との関係を見ると、「とても関心がある」層では、「大いに参加したい」が20%、「少し参加したい」が50%弱で、合わせて70%以上という高い割合が参加の意志を表明する。「やや関心がある」層でも、積極的参加意向は少ないものの、「少し参加したい」が44%ある。これに対して、「あまり関心がない」層では、参加の意向表明はわずか10%に留まり、50%以上が「参加し

表 8 景観づくりへの取り組みのあり方と景観づくりへの関心

景観づくりへの関心 \ 景観づくりへの取り組みのあり方	規制派	啓発派	現状維持派	総 計
とても関心がある	43 44.8	53 55.2		96 100.0
やや関心がある	129 36.5	211 59.8	13 3.7	353 100.0
どちらともいえない	42 31.1	79 58.5	14 10.4	135 100.0
あまり関心がない	13 21.7	33 55.0	14 23.3	60 100.0
まったく関心がない		1 20.0	4 80.0	5 100.0
総 計	227 35.0	377 58.1	45 6.9	649 100.0

注：上段が実数，下段が％  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

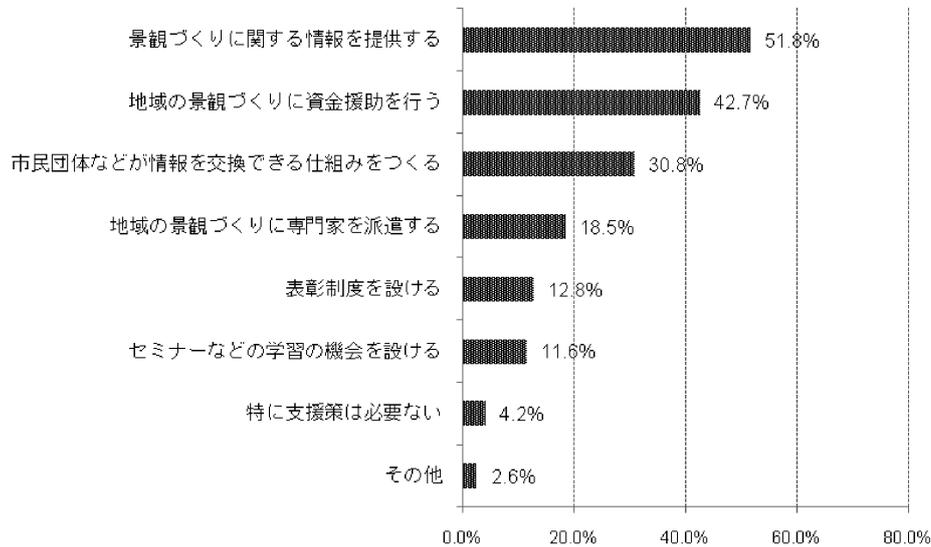


図 15 景観づくりへの支援策

注：設問「市民が景観づくりの活動を進めていくために、どのような支援策があればよいと思いますか」  
資料：2009年8月実施のアンケート調査による。

たくない」としている。したがって、大事なことは、景観に関心をもつ層を増やす努力とそれらの人々を具体的な行動に導く工夫である。

景観づくりの活動に対しては、どのような支援策が必要だろうか。本アンケートで選択肢として掲げた支援策はいずれも重要と思われるが、特に支持が多かったのは、「景観づくりに関する情報を提供する」(52%)、「地域の景観づくりに資金援助を行う」(43%)であった(図 15)。さらに市民団体が情報交換できる仕組みづくりも望まれている。資金援助については行政の取り組みが特に重要であるが、情報の提供や交換については、NPO や大学など民間の諸団体にも期待

されるところが大きいといえよう。

以上から、景観づくりの活動を東広島市で本格的に推進するには、まず、市民に対して景観づくりに関する啓発活動や情報提供を行うこと、関係者が情報交換をできる仕組みをつくることが求められる。これに並行して、景観づくりへの関心を高めていく事業も有効であろう。たとえば、景観写真のコンテストや展示、景観づくりの優良事例の表彰制度、地域の景観づくりへの資金援助などは一考の価値がある。最後に、景観づくりのためのガバナンスのあり方、特に行政と民間の協働が大きな課題となる。景観づくりに関わって NPO などの団体を設立することも射程に入れておく

必要であろう。

## V. おわりに

本稿では、東広島市を対象に市民へのアンケート調査を行い、地域の景観に関する意識や意向の分析を行った。さらにその結果をふまえ、今後の東広島市における景観づくりのための課題も検討した。

東広島市では、市民の身の回りの景観への関心は総じて高いものの、東広島市の景観を特に魅力的なものと考えない人が多い。そうした中で、多くの人に好まれている景観として、酒蔵通りの歴史的景観やブルバールの近代的景観といったスポット的なものがある。それと同時に、東広島市の地域的枠組みをなす景観も多くの支持を得ている。盆地の周囲を囲む山々や里山のアカマツ林を背景に、赤瓦と白壁の建物が点在し、その手前には水田が広がっているという景観であるが、こうした結果は、西条盆地で行った岡橋（2005）の結果とも類似しており、東広島市の景観選好の特徴として、ある程度一般化できるように思われる。景観政策においては、スポット的でないこのような景観への対処こそが強く求められよう。

景観づくりへの市民の関心は総じて高く、景観の現状に関しても多くの懸念が表明されているが、具体的な取り組みとなると意見が分かれる。いわゆる、啓発派と規制派といえるが、割合としては規制を避ける前者の方が多い。しかし、景観づくりへの関心が高くなるほど規制派の比率が高まり、景観づくりへの参加意向も高くなるので、景観づくりへの関心を高めていくことが、規制を取り入れた本格的な景観づくりに有効に作用すると考えられる。

さらに行政の役割として景観づくりの目標や基本方針を示すことへの期待も多く表明されている。それゆえ、今後、景観づくりを東広島市で本格的に推進するには合意形成が重要であるが、市民に対して景観づくりに関する情報を提供すること、特に景観法への市民の理解を高めていく作業や、さらに関係者が相互に情報交換できる仕組みが求められる。これと並行して、景観づくりへの関心を高める様々な事業の実施も有効であろう。そして、最終的な課題として景観づくりにおけるガバナンスのあり方が大きな問題となる。

最後に、平成の大合併後広域化した東広島市の景観づくりにおいては、賀茂台地の中山間地域全体を対象としたランドデザインが求められることを指摘しておきたい。それは、単に景観保全の領域にとどまらず、地域づくり（地域振興）をも包含するものでなければならない<sup>4)</sup>。そのための方法としては、エコミュージ

アムの考えを導入して、サテライトのネットワークの展開を図り、賀茂台地エコミュージアムとして発展させていくことが考えられる<sup>5)</sup>。その際、自然、文化、歴史、地理など地域の総合的な理解を深めていくことが必要であるが、それに応えうる拠点の一つとして、広島大学総合博物館が役割を発揮することができよう。本博物館はこれまで地域重視を基本方針の一つに掲げ、里山里海をテーマとした展示や研究活動にも力を入れてきた。そうした博物館の実績と地域の景観づくりは相互に関連する部分が多い。それゆえ行政、大学、住民が相互に連携することで、景観づくりを地域づくりへと発展させていくことも可能であろう。その意味で、本稿は、大学博物館の地域貢献への端緒を切り開く基礎作業として位置づけることもできる。

## 【付記】

本稿は、平成 21 年度広島大学「地域貢献研究」事業、平成 20-22 年度科学研究費補助金基盤研究 (B)「知識経済化時代における成長ビジネスの立地と人的資源」(研究代表者：友澤和夫、課題番号 20320128) による研究成果の一部である。なお、(社団法人)東広島市観光協会の村上専務理事には本研究を始めるきっかけを作って頂いた。また、大学院生の田中健作君には図の作成でお世話になった。記してこれらの方々に御礼申し上げる。

## 【注】

- 1) 「景観づくり」はよく用いられるが、厳密な定義はあまりなされていない。概ね、景観法の第一条に掲げられた「我が国の都市、農山漁村等における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずること」に対応する内容といえよう。類似の用語として「景観まちづくり」もよく用いられる。自治体景観政策研究会(2009)では、「単に美しく、魅力的な空間をつくることだけでなく、安全性や機能性などの基本的な性能を確保するとともに、そこに住み、働く人のいきいきした生活や活動を目指すものであり、総合的なまちづくりと一体的なものである」としており、そこではまちづくりの比重が高くなっている。
- 2) 本研究は、筆者が代表者を務めた平成 21 年度広島大学の「地域貢献研究」の一環として行なった。この事業は、大学本来の研究機能を地域社会の発展に役立てるべく、「地域社会が解決を迫られている共通性の高い課題」並びに「地域社会の人々が描く夢の実現に関わる共通性の高い課題」について、地域からの提案に基づいて行う研究である。本研究の場合は、(社団法人)東広島市観光協会と東広島市

都市計画課の提案に応える形で行った。事業のテーマは、「東広島市における景観まちづくりのための基礎的調査と方策の提案—広島大学総合博物館との連携による学習の場の構築を通して」である。

- 3) インターネット調査の実施は、インテージ(株)に依頼して行った。
- 4) 東広島市の農村部での地域づくりについては、岡橋(2008)を参照。
- 5) この点では、兵庫県の「北はりま田園空間博物館」の取り組みが参考となる。岡橋(2009)を参照。

#### 【文献】

- 岡橋秀典(2005)：東広島市における住民の景観意識と景観保全—赤瓦景観を中心として。広島大学文学研究科論集 65, 97-116.
- 岡橋秀典(2008)：知識経済化時代における中山間地域の新展開—東広島市福富町竹仁地区の事例を中心として—。地理科学 63, 194-204.
- 岡橋秀典(2009)：田園空間博物館による地域づくりの展開とルーラル・ガバナンス—兵庫県の「北はりま田園空間博物館」の事例から—。日本地理学会発表要旨集 75, 112.
- 都市環境研究所(1980)：『広島大学統合移転キャンパス周辺地域基礎調査報告書』。
- 自治体景観政策研究会(2009)：『景観まちづくり最前線』学芸出版社。
- (2010年8月31日受付)
- (2010年11月19日受理)



1. 遠くに見える山並みの風景



2. 一面に広がる水田の風景



3. 島が点在する瀬戸内海の風景



4. 赤松などからなる里山の風景



5. 山間部の棚田の風景



6. 赤瓦屋根の農村風景



7. 黒瀬川などの河川沿いの風景



8. 点在するため池の風景



9. 一直線に走る道路の風景



10. 新しく開発された住宅団地の風景



11. 田畑の中に新しい住宅やマンションが混在する風景



12. スーパーなど新しい商業施設が立地する風景



13. 山陽自動車道  
(高速道路)の景色  
[インターと道路]



14. 新幹線と東広島駅  
周辺の景色



15. 西条駅付近から広島大学へ  
伸びるブルバールの景色



16. 酒蔵のある  
旧山陽道沿いの道



17. 白市地区の歴史的  
まちなみの景色



18. 広島大学やサイエンスパーク  
などの近代的建物の景色



19. 三永水源地付近の景色

付図 「好きな景観」及び「大切にしたい景観」の選択肢としてあげた景観の一覧  
注：アンケートでは、写真を付さず、景観をあらわす文章のみをあげて質問した。